
第3回「横断するポピュラーカルチャー」
研究交流ワークショップのご案内

以下の要領で研究交流ワークショップを開催します。このワークショップは、広い意味でのポピュラーカルチャー（民衆文化、民俗文化、社会運動と表現など）に関する研究や実践活動を行っている方々に参加を呼びかけ、発表・討論・交流の機会を設けるために開催します。研究領域や立場の違いを越えて、幅広く議論ができるようなワークショップにしたいと考えております。皆様、ぜひ、ご参加ください。

■日時 2010年3月20日（土）10:30～18:00

■会場 大阪大学豊中キャンパス 大学教育実践センター

開放型セミナー室（スチューデントコモンズ）（教育研究棟Ⅰ〔旧：自然科学棟〕1階）
参加無料です。どなたでもご自由にご参加ください。

（ただし参加予定の方にはお願いがあります。裏側の【※注意】をご覧ください）

■プログラム

[主催者趣旨説明] (10:30-10:40)

[セッション（1）]

- ・鎌倉祥太郎（大阪大学大学院文学研究科）「津村喬における『日常性』批判の射程」10:40-11:15
- ・日高由貴（大阪大学大学院文学研究科）「『感情』は『商品』になりうるのか—A.R. ホックシールドにおける『感情労働』概念の再検討の試み」11:15-11:50
- ・松葉志穂（大阪大学大学院文学研究科）「妄想乙女と萌え男子—男性身体の『キャラ化』、そして『腐女子』とは」11:50-12:25

[セッション（2）]

- ・秦美香子（神戸大学大学院）「ジェンダーをずらす表現のコード化と解読—『オトメン』の事例から」13:30-14:05
- ・増田のぞみ（花園大学文学部）「『少女』向けテレビアニメにおけるヒロイン像の分析—『プリキュア』シリーズの事例より」14:05-14:40

[セッション（3）]

- ・竹原明理（大阪大学大学院文学研究科）「美と不気味の狭間で—衣装展示用としての生人形をめぐる」14:55-15:30
- ・柿田 肇（大阪大学大学院文学研究科）「『宝塚』とは誰のものか？—ファン、当局者、そして今、記述する私について 1930年代後半の動向を起点に」15:30-16:05

[セッション（4）全体討論]16:20-18:00

・司会 富山一郎（大阪大学文学研究科）

[懇親交流会] 18:00-20:00（同会場で引き続き）

／コメンテーター 辻大介（大阪大学人間科学研究科、金水敏（大阪大学文学研究科）ほか

〈裏面もご覧ください〉

■ 【※注意】

参加される皆様へ

【事前にディスカッションペーパーを読んだ上でご参加ください!】

本ワークショップでは、発表者に対して事前に「ディスカッションペーパー」の提出をお願いしてあります。これは、発表者からの報告を、参加者は一方的に聞くだけで終わり、ということになってしまわないよう、できるだけ討論の時間を充実させるための工夫です。当日の発表は、参加者が既にディスカッションペーパーを読んできているものとして行っていただきます。

ワークショップへの参加希望者は、以下のアドレスまで、メールでご連絡ください。ディスカッションペーパーが読めるサイトのアドレスをお教えします。

crossing-popularculture@let.osaka-u.ac.jp

■ 【主催】

大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」内「横断するポピュラーカルチャー」研究プロジェクト（代表 富山一郎）

大阪大学大学院文学研究科国際現代文化研究ハブ

「横断するポピュラーカルチャー」研究プロジェクトの詳細は、ホームページ (<http://www.let.osaka-u.ac.jp/crossing-popularculture/>) をご覧ください。

■ 【問い合わせ先】

crossing-popularculture@let.osaka-u.ac.jp（担当 古川岳志）

グローバルCOEプログラムに関してはコチラ <http://gcoe.hus.osaka-u.ac.jp/> をご参照ください。